



## 土木業界で自分らしく働く。

高校生のときに抱いた夢を叶え、活躍する松枝さん。  
土木業界で働くことに対して、  
感じていることを語っていただきました。

### 松枝 繭さん MAYU MATSUEDA

鹿島建設株式会社 土木設計本部

高校、大学と理系の道を進み、建設会社の土木領域へ就職。空港の滑走路をつくる設計を担当した後、第1子を出産。産休・育休から復帰後は、ガスタンク、ドックや栈橋などの臨海構造物の設計を手がける。鉄道の高架化工事の現場監督も経験。さらに震災で破損した海洋構造物の復旧に携わった後、第2子を出産。2回目の産休・育休後、シールドトンネルの設計を担当する。

## 「夢を叶えるために理系へ。男性が多いことに違和感はありませんでした。」

—— 理系の道を進み、土木業界へ就職するまでの経緯を聞かせてください。

**小** さいころからモデルルームや町並みを見て「自分だったらどんなものをつくるだろう」と思い描くことが好きで、将来は土木系か建築系に進もうと思っていました。人生を決定付けたのは高校2年生のとき。できたばかりの関西国際空港を見にいって、「これくらい大きいものをつくりたい」と思いました。

もともと得意な科目も理数系。高校2年生の文理選択では迷わず理系へ進みました。当時のクラスの男女比は、女子が全体の3分の1くらい。その後に進んだ大学の土木工学科では、100人以上の学生の中で女子はわずか5人でした。大学4年生で研究室に入ると、ついに女子は1人きり。そんな環境でもとりわけ違和感を覚えることなく修士課程まで過ごし、「自分で設計したものを現場でつくりたい」という思いから、総合建設会社に就職しました。

## 「リケジョ」って、どんな女性？

最近、理系の女性が「リケジョ」と呼ばれ注目されています。

理系に進む人の割合は、男性のほうが多いのが現状。そんな理系分野に女性が増えていくと、研究や製品開発にこれまでになかった視点が生まれます。結果、社会を発展させるイノベーション(技術革新)が起こる可能性が高まるのです。

ところで、みなさんは「リケジョ」と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？ フラスコに白衣の研究者？ ひと口に理系といっても、その仕事の

範囲はとても広いのです。大学などの機関で働く研究者をはじめ、企業に就職し商品開発に携わる人もいます。また技術者も、ヘルメットに作業服で働く人だけではありません。地域住民と話をしながら都市計画を策定する人、土木技術を向上させるための研究に携わる人など、「リケジョ」が活躍する世界は幅広いのです。

女性が心配なく理系の進路を選択できるように、オープンキャンパスで実験実習や女性研究者との交流機会を実施している大学もあります。貴重な体

験や情報が得られるので、興味のある人はぜひ参加してみてください。



— 実際に土木業界で働いてみて、感じたことを教えてください。

**私** が入社したとき、女性の土木技術者が採用されることはまだまだ特別なケースでしたが、女子寮の整備など、女性を受け入れようとする会社の姿勢が心強かったです。現場では、設計から実際の作業の監督まで、自分が主導して構造物をつくり上げていきます。空港や港湾、トンネルといったスケールの大きなものを、協力会社の作業員さんたちと一緒に完成させて

いく仕事には、大きなやりがいや達成感があります。大切なのは、良好な人間関係。作業員さんたちに対しても、普段からよくコミュニケーションをとり、単に指示するのではなく、一緒に解決するという姿勢を心がけました。お互いのやり方を認め、こちらの熱意が伝わるようになると、現場もうまく回るようになりました。今後は、これまで培ってきた経験を生かして広い視野で設計に携わり、自分が設計したと胸を張って言える土木構造物を残していきたいと思っています。

## 「仕事に子育て。将来やりたいと思っていたことが実現できて、うれしいです。」

— 出産後、育児と仕事を両立させるために工夫していることや、大変だったことがあれば教えてください。

**限** られた時間の中で仕事をして、夜は頭を切り替えて育児と、目まぐるしい毎日ですが、仕事、結婚、出産、育児……と、高校生のころに「将来やりたい」と思っていたことをすべて叶えられているので、とても充実しています。仕事と家庭の両立の方法は人それぞれで、正解は一つではないと思います。私の場合は、残業漬けにならないよう、仕事中はそれまで以上に集中力を高め、前倒しで進めるようになりました。今も設計修業中で、子供を寝かしつけた後、仕事に関する勉強をすることもあります。また、育児では夫の協力が不可欠。仕事でも家庭でもバランス良く自分なりのやり方を見つけられると良いですね。

この業界で働くのに、女性だからと不安に思う必要はありません。自分がやりたいことを見つけて、具体的なビジョンを描いて、ぜひ夢を実現してください。



▲ 工事現場では職人からの信頼も厚い



### 『上司の方に聞きました』

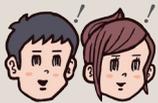
土木業界で女性が活躍することに対して、どのように感じていますか。



**松** 枝さんは、私にとって初めての女性の部下。最初は「こんなことを頼んでも大丈夫かな」と、こちらも迷いながら接しているところもありましたが、女性だからといって、特別扱いはしませんでした。育児との両立は大変でしょうが、好きなことに打ち込んでいる姿は輝いています。人を惹きつける力のある彼女と働くのは楽しいですし、これからも松枝さんのように、この業界で働く女性が増えてほしいですね。

### 松枝さんの人生のターニングポイント!





## 子供たちの成長を見守る やりがいのある仕事。 そこに男女の違いはない。

幼稚園で教員として活躍中の久留島さん。  
久留島さんのように、自分の好きなことを仕事にするためには  
どうすればいいのでしょうか。

### 久留島太郎さん TARO KURUSHIMA

千葉大学教育学部附属幼稚園教員

千葉大学教育学部幼稚園教員養成課程修了後、千葉県の私立幼稚園・東京都の公立幼稚園の教員として勤務。三男の誕生を機に、地元千葉県での教員採用試験を受ける。公立校の小学校教員を経て、現職に至る。現在、4人の男児の父として家庭の時間を大切にしながらも、NPO法人理事など様々な活動に取り組んでいる。

## 「自分が本当になりたい仕事だから、男性が少ないことに気後れしなかった。」

— 幼稚園の教員を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

「幼稚園の先生になる」と進路を決めたのは高校生のとき。子供のことが好きで、教育にかかわる仕事をしたいと思っていたからです。当時は今以上に幼稚園教員を目指す男性

は少ない時代で、お手本となる先輩はほとんどいませんでした。でも、誰もやっていない生き方はきっと楽しいことが多いだろうと、むしろプラスに考えました。大学の幼稚園教員養成課程へ進んだときも男性の比率が少ない環境でしたが、この仕事に就いてから、肩身の狭い思いをしたことはありません。

## 介護と仕事の両立に挑戦。

### 横澤昌典さん MASANORI YOKOZAWA

向洋電機土木株式会社 総務部課長



横澤さんは、大手総合商社で統括責任者までキャリアアップしたとき、父親が重い病気であることがわかりました。残された時間はできるだけそばにいたいと思い、会社に何度も相談しましたが、取り合ってもらえませんでした。仕事を取るか、親孝行を取るか。横澤さんは悩んだ末に会社を辞め、介護に専念することを決意しました。介護中に子供が誕生し、現在は仕事と介護、そして育児も両立。再就職した会社では、同じ立場の人でも働きやすい環境づくりに取り組んでいます。横澤さんのように介護の負担により離職せざるを得ない人がいるのも現実。介護をしている人でも本意な離職をしないで済むような社会づくりが求められています。

キャリアと家庭。大切な二つを両立するために何が必要か、あなたも考えてみてください。

### 横澤さんの会社での介護支援の取組

自身の介護経験をもとに、横澤さんは再就職した向洋電機土木株式会社で仕事と介護の両立のための制度整備に力を尽くしました。その甲斐あって、仕事と家庭の両立支援に取り組む企業を表彰する「よこはまグッドバランス賞」を受賞しました。仕事と介護の両立に向けて、社会は動き出しています。

#### □向洋電機土木の介護支援の取組

家族の介護休暇	介護時短勤務	介護休業	積立休暇	時差出勤
在宅勤務	テレワーク	ゲストを招いた社内勉強会		

#### □仕事と介護の両立を実現できる風土

制度が整っていても、それを利用できる雰囲気があれば、介護と仕事の両立はできません。横澤さんの働きかけもあり、「家族を大切にしながら働くことが当たり前」という風土が醸成された同社では、横澤さんのほかにも介護と仕事を両立している社員がいます。

—— 実際に幼稚園で働いていて困ったことや、良かったと思うことを教えてください。

**大**学を卒業し、いざ幼稚園で働き始めたころは、男性用の更衣室がないといった環境的な課題はありました。でも、男性であるという理由で苦勞することはありませんでした。子供たちと触れ合う生活を通して、「自分は男だから……」といった性別の違いに悩むよりも、自分の教育スキルの至らなさの

ほうが大きな悩みでしたし、教員一人ひとりの教育観や仕事に対する意識の違いのほうが重要だと考えていました。一方、男性の幼稚園教員ならではの強みは「目立つ」ということです。子供たちから注目が集まる存在なので、自分の思いも伝えやすい。教育者として発信しやすいことはメリットだと思います。ただ、私としてはプラス面、マイナス面、それぞれあるにしても、男女関係なく同じ土俵に立ち、プロの教育者として平等に働いていたらと考えています。

## 「教員は子供にとって身近なモデル。画一的ではない、多様な存在でありたい。」

—— 男性の幼稚園教員の今後の可能性と、これから進路を考える高校生へアドバイスをお願いします。

**男**性教員はもっと増えてほしいと思います。幼稚園は子供たちが初めて経験する社会です。その環境の中で、教員は子供たちの身近な存在であり、影響を与える存在でもありますから、女性だけではなく男性がいたほうが良いと思います。「先生にもいろんな人がいるんだ」と、生き方の多様さを知ってもらうことで、子供たちは将来の可能性を広げることができるのです。だから今、進路に悩んでいる高校生のみなさんも、なるべくいろいろな大人と出会ってほしいと思います。身近な親や教師だけではなく、それまで知らなかった大人の生き方をたくさん知ってください。



▲「子供も自分も成長させられる仕事です」と話す久留島さん

### 『幼稚園の副園長先生に聞きました』

男性教員がいることは、幼稚園にどんな効果をもたらしますか？

**子**供たちを抱えたり、振り回したりする遊びなど、男性教員は体力的にダイナミックな活動ができるのが利点ですね。女性教員と男性教員、どちらのほうが優れているということはありません。子供たちにとっては、男女それぞれの特性があることを理解しながら「今日はどっちの先生と遊ぼうか？」というように、選択肢があるというのが良いことだと思います。また、子供たちだけではなく保護者へも良い影響を与えています。特にお父さんたちには、男性教員の活動を通じて、幼稚園のことを身近に感じてもらえていると思います。久留島先生の存在は、男性が育児にかかわるモデルケースとしても参考になりますし、お父さんたちのボランティア活動など、日常生活を越えた場面でも男性の参加を自然と後押ししてくれるので助かります。

### 久留島さんの人生のターニングポイント！

子供が好きなので幼稚園教員を目指す道を選ぶ。

千葉県の私立幼稚園から教員のキャリアをスタート。

家族と過ごす時間を増やすため地元千葉での採用試験を受け直す。

幼稚園教員の経験を生かし、NPO 法人の理事としても活躍中。

！ 学生時代

！ 就職

！ 結婚～第3子の誕生

！ 現在



## 子供と向き合う時間が、 管理職として働く自分の 成長にもつながった。

子供と過ごす時間を大切にしながら、会社では管理職として活躍する今川さん。  
育児と仕事を両立させる生活の現実について語っていただきました。

今川みどりさん MIDORI IMAGAWA

サントリービジネスエキスパート株式会社 お客様リレーション本部 課長

大学卒業後、大手飲料メーカーに就職。宣伝部で10年間働いた後、食品事業部へ異動し、課長にも昇進。2人の子供の出産後は育児休業を取得。子供が保育園に入園すると、育児をしながら「時短勤務」で仕事に復帰。現在はお客様の声を収集して事業に活用する会社をサポートする部署で活躍中。

### 「仕事が大好きになってしまったから、出産しても辞めることは考えられなかった。」

—— 高校生のころに描いていた将来のイメージと、これまでに築いてきた実際のキャリアについて聞かせてください。

「子供ができて、働き続けていたいな。」高校生のころは将来について、そんな漠然としたイメージを抱いていました。就職活動をしていくうちに、生活にかかわりの深いものをつづけている会社で働きたいと思い、飲料メーカーに就職しました。入社して二つめの部署にいたとき、2人の子供を出産。その後、

課長に昇進しましたが、まったく違う領域にも挑戦してみたいという思いがあり、再び異動して現在の部署へ。2人の部下とともに、海外の事業会社向けにSNSを利用したマーケティングを行っています。グローバル市場に向けて、最先端の技術を活用していく仕事には、正解がありません。試行錯誤を繰り返し、社会に先駆けて道を切り開いていく毎日は、いつも新鮮な刺激に満ちています。

### 「女性の活躍」は日本を元気にする!

少子高齢化が進む日本。労働力人口の減少が懸念されています。この状況を救う力として注目されているのが、これまで生かし切れていなかった「女性の力」。今後、新たな成長分野を支えていく人材を確保していくためにも、この「女性の力」が不可欠です。働く女性や女性経営者が増えていけば、企業に幅広い価値観が注入され、新たな発想によるサービスや製品も生まれやすくなるでしょう。家庭単位で見ても、共働き世帯はダブルインカム(二つの収入源があること)となるため家計所

得と購買力が増大。景気の好循環も期待できるのです。

しかし、これまでいろいろ問題により、取組はなかなか進みませんでした。日本をもっともっと元気にするこ

とにつながる「女性の活躍」を推進するために、男性も女性もみなさん一人ひとりが、社会の一員として、今後、何をどう変えていけばいいのでしょうか。考えてみましょう。



—— お子さんを出産したとき、仕事を辞めることは考えませんでしたか？ どうして育児と仕事を両立させる道を選んだのですか？

妊娠したときにいた部署は、女性の割合が半分くらいでしたが、そこに育児と仕事を両立している人はいませんでした。とても忙しい部署だったこともあり、出産後に復帰することを想像すると、「本当に両立なんてできるんだろうか」と

いう不安があったのが正直なところでした。同時に、10年以上働き続けてきた中で、仕事が大好きになっている自分もいました。出産しても仕事を続けたいけれど、実際にどこまで両立できるかはわからない。そんな率直な気持ちを当時の上司に打ち明けると、どちらも大事にしたい気持ちがあるなら、両立に挑戦してみればいい。もしもダメだったらそのときに考えればいいと言ってくれました。その言葉に勇気付けられて、復職しました。

## 「自分が夢中になれることに純粋にエネルギーを注いでほしい。」

—— 育児休業が終わって仕事に復帰してから始まった育児と仕事を両立させる生活は、どのようなものですか。

育児休業から復帰してからは、「時短勤務」という働き方をしています。残業はせず17時になれば仕事を切り上げて会社を出ます。勤務時間が短くなった分、会社にいる間にできる限り集中して、電車での移動時間もムダにせず仕事のアイデアを考え続けるようになりました。退社後は保育園に子供を迎

えに行き、家で夕食を食べさせ、お風呂に入れて、翌日の準備をしてから、寝かせます。とにかく効率性を意識してやっていますが、それでもすべてを1人でこなすのは体力的にも厳しいので、家事・育児の面では夫の協力は欠かせません。子供のお迎えは平日に早く帰れる私の担当になりますが、夫も夜中遅く帰ってきてから洗濯物を干してくれたりします。100パーセント平等に分担するのは難しいですが、相手も忙しい中で一生懸命やろうとしてくれていることが感じられれば、ストレスも溜まりにくいです。やらなければならないことに優先順位をつけていくうちに、自然と自分の大切にしているものが見えてきました。私にとっていちばん大切なのは、子供と過ごす時間。ときには叱らないといけない場面もありますが、やっぱりどうしてもなく愛おしい。また、想像もつかないような視点を持っている子供と向き合うことは、管理職として働く自分の成長にもつながりました。自分より経験の浅い人の中にも、きっと思いもよらないエネルギーが眠っている。部下がいる立場になって、そんな力を引き出すことを意識できるようになったのです。



▲コンビニなどで馴染みの商品にも今川さんが携わったものがある

—— 今川さんのキャリアを振り返って、これから将来を考える高校生にメッセージをお願いします。

学生のころはわかりませんでしたが、働けば働くほど、仕事が面白くなっていきました。育児と仕事の両立は簡単ではありませんが、それでもこの生き方を続けられるのは、どちらとも大好きだからです。これからは、性別はもちろん、国境

の垣根もどんどん取り払われていく時代。枠にとらわれず、純粋に自分がやりたいと思えることにエネルギーを注ぎ込んでください。万が一、それが長続きしなくても、何かに夢中になった経験はムダになりませんし、いくらでも軌道修正できますから。

### 今川さんの人生のターニングポイント！

